

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	lulu (ルル) ちいさいおうち		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日		～ 令和8年 3月 末日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日		～ 令和8年 3月 末日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 29日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	清潔で安心して過ごせる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動スペースと落ち着いて過ごすスペースを視覚的に分け、子どもが見て理解しやすい環境を整えている。</li> <li>クールダウンスペースを設け、気持ちが不安定な時に安心して過ごせる場所を確保している。</li> <li>日々の清掃や換気、温度管理を徹底し、快適な環境を維持している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動と静のエリアのレイアウトを見直し、より分かりやすい環境づくりを進める。</li> <li>クールダウンスペースの使い方をスタッフ間で統一し、子どもが安心して利用できるようにする。</li> <li>季節や活動内容に応じた環境調整(照明・空調・掲示物の工夫)を継続して行う。</li> </ul>
2	子どもの特性を理解した専門的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の記録を丁寧に言い、「いつもと違う様子が見られた場合は日誌に記載し、上司に報告」するなど、変化を見逃さない体制を整えている。</li> <li>個別支援計画を作成する際、子どもの特性や保護者の意向を踏まえて検討している。</li> <li>活動プログラムが固定化しないよう、曜日ごとの子どもの雰囲気に合わせて内容を調整している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準化されたアセスメントツールの活用を進め、より客観的な評価を取り入れる。</li> <li>支援計画の見直しを行うためのミーティングを定期的に設け、スタッフ間で共通理解を深める。</li> <li>子どもの変化を全スタッフが共有できる仕組み(共有ノート・ICT活用)を整備する。</li> </ul>
3	保護者との丁寧なコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話・メール・面談など、複数の方法で保護者と連絡を取り合い、日々の様子を丁寧に伝えている。</li> <li>事故や怪我があった際には、状況を速やかに説明し、安心していただけるよう努めている。</li> <li>子育ての悩みについても相談を受け、必要に応じて助言を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブログ等での活動報告を再開し、不定期でも継続的に情報発信を行う。</li> <li>面談の機会を増やし、子どもの成長や課題を保護者と一緒に確認できる場をつくる。</li> <li>事故・トラブル時の説明方法を統一し、より安心していただける対応を徹底する。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間の情報共有・打合せの不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタッフが揃にくい時間帯があり、支援前後の打合せが十分に行えない。</li> <li>「残っているスタッフがいる時は、なるべく話をしています」とあるように、共有の仕組みが整っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>短時間で実施できる“ミニ打合せ”を導入し、支援前後の確認を確実に進行。</li> <li>共有ノートやICTツールを活用し、スタッフ全員が情報を把握できる体制を整える。</li> <li>支援の振り返りを必ず記録として残し、次の支援に活かせるようにする。</li> </ul>
2	研修機会・外部機関との連携の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間的な制約により、外部研修への参加が難しい。</li> <li>児童発達支援センターとの連携や助言を受ける機会が十分に確保できていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン研修を積極的に活用し、無理なく学べる環境を整える。</li> <li>児童発達支援センターとの情報交換の場を定期的に設け、助言を受けられる体制をつくる。</li> <li>法人内外の研修情報を共有し、参加しやすい研修を選択できるようにする。</li> </ul>
3	地域交流・保護者交流の機会の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策や人員体制の影響で、イベント開催が難しい時期が続いた。</li> <li>地域の児童館や学校との連携機会が限られている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少人数で参加しやすい交流会を企画し、保護者同士が自然に話せる場をつくる。</li> <li>児童館や学校と連携し、共同で活動できる機会を増やす。</li> <li>地域の行事やイベントに参加しやすい方法を検討し、交流の幅を広げる。</li> </ul>